

白 河

S H I R A K A W A



が響き合うまち



白河市勢要覧

第一章 「白河の楽しみ」

- 自然 自然体の心が広がるまち……4
- 歴史・文化 静かに、そこにある遊び……8
- 食 豊かな風土と歴史が育んだ味わい……12

特集 白河楽考 ……14

子どもたちが夢見る まちの楽しい未来
大人たちが進める 白河の楽しい魅力づくり

第二章 「白河の楽」

- まちづくりの理念 ……20
- 安全・安心に暮らせる人にやさしいまち…21
- いきいきと健やかで
明るい笑顔があふれるまち ……22
- 地域資源を生かし産業を育て、
雇用を生むまち ……23
- 心豊かに学び・ともにふれあい・生きる喜びを
実感できるまち ……24
- 快適でやすらぎのある住みよいまち……25
- 自然と共生し、
潤いのある環境を未来につなぐまち ……26
- 地域のふれあいと支え合いで共に創るまち……27

白河彩景 ……28

数字で見る白河 ……30

発刊にあたって 白河市長 鈴木和夫
白河市の概要／市章・市の花・木・鳥
……31

楽翁——それは今から約二百年前、傑出した名君として白河を治めた松平定信の隠退後の雅号です。その遺徳は、今日まで市民に慕われ続けています。

定信は茶の湯の造詣も深く、今に残る「茶道訓」や「茶事掟」などの著書を見ると、質朴・質素などの考えが記されています。

決して華美ではなく、自然でさらりとした清廉さを、白河の人々は愛してきました。白河は、まちそのものが自然体。美・味・ふるまい・暮らし……あらゆる面でその精神は受け継がれています。

南湖は、「身分の分け隔てなく共に楽しもう」という定信の『土民共楽』の理念を基に造営されました。今に残る茶室「共楽亭」にその想いが反映されています。

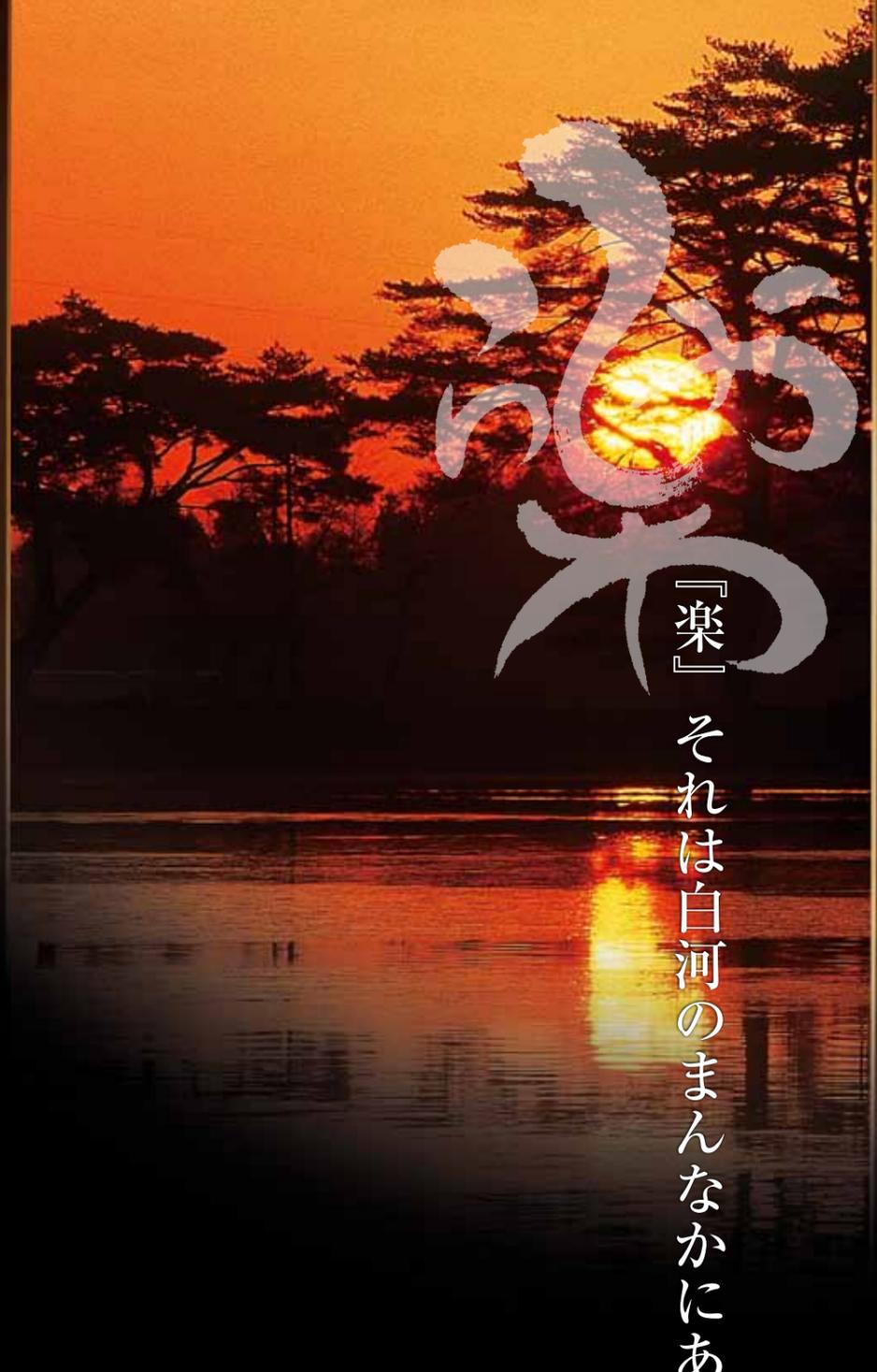
「楽」しくあれ——楽翁の想いが、今も白河に息づいています。



【松平定信】

1787年から6年間江戸幕府老中首座を務め、寛政の改革を行うなど幕府立て直しに尽力。白河藩政にあつては「土民共楽」の理念に基づき南湖の造営を行うなど、名君として知られています。

松平楽翁像／福島県立博物館蔵



「楽」それは白河のまんなかにある言葉。



自然

自然体の心が広がるまち

「作るべき庭は地勢に従い、
 できるだけ自然に近い形をまねる、
 あるいは残すべきである」
 これは、生涯に五つもの庭を築いた定信の庭園観です。
 自然のものは自然のままに残す――
 私たちが未来に遺すべき理想の風景が
 ここにあります。



【南湖公園】

白河藩主・松平定信が「士民共楽」の理念に基づき享和元年(1801)に造営した、庭園の要素も取り入れた公園。大正13年に国の史跡名勝に指定。

民楽 士共

四季折々に人々が楽しむ のびやかな自然の美しさ

白 河藩主であった松平定信(隠退後は楽翁)は、その政治的手腕にとどまらず、文化的素養にも秀でた人物でした。作庭にも造詣が深く、南湖は定信が造った公園として知られています。南湖の開発は、新田開発のための灌漑工事が出発点でしたが、そこに庭園の手法を取り入れたばかりか近代的な思想まで加えて整備したところに、定信の卓越した考え方がうかがわれます。

それまで諸藩にあった大名庭園というものは、あくまで藩主とその家族のものでした。それに対し、南湖はいつでも身分の分け隔てなく、武士も庶民も共に楽しむという「士民共楽」の理念のもとに造営され、開放されました。その完成は、身分制度の厳しかった江戸時代において先駆的な「パブリックガーデン＝公園」の誕生といえるかもしれません。
 定信は、自然の地形を生かしながら、あまり手を加えずに南湖を造営しています。近年、全国各地で盛んに行われている「美しい景観づくり」は、まさに「自然のものを自然のままに」残すことが理想ですが、そんな自然体の姿が今から二百年余りも前に白河の地に生まれていたのです。

南湖公園が四季折々に見せる様々な表情は、それぞれに美しく、今も訪れる人々を楽しませてくれます。

【共楽亭】

「身分の高い低いに関係なく、共に楽しもう」――そんな考えのもと、定信が湖南北側に建てた茶室「共楽亭」は、当時から庶民にも開放されていました。





夕焼けの南湖公園



大池の白鳥



南湖公園の散策路



白河関の森公園のカタクリ

大信不動滝

四季 楽 彩

美しい自然が身近にある、
心やすらぐ幸せなひとときをいつまでも

白

河市の西側、那須山系・甲子高原のふところ深くには、福島県を縦貫する阿武隈川の源があります。那須連峰の美しい山々を仰ぎ、里に清冽な水が流れる恵まれた環境のもと、ふもとのまち・白河では、豊かな自然が育まれています。春には、眠っていた彩りがいっせいに咲き、夏はうっそうたる緑が茂る中、涼やかな水辺に人々が集います。稲穂が黄金色に輝く秋は、燃えるような紅葉の美しさが胸の奥までしみわたり、雪積もる冬の風景には深い静寂が広がります。その移り変わりを、市民の誰もが愛し、親しんでいます。

心やすらぐ風景が四季折々に広がる白河の地は、高原の爽やか

な気候のもと、遙かなる時代から自然の恵みに支えられてきました。人々は、日々の暮らしの中で手つかずの自然を大切にするとともに、南湖公園や白河関の森公園など、自然に気軽に親しめる空間の整備に力を注いできました。とりわけ近年、南湖の松枯れ対策として一部車の通行止めを実現したり、また、阿武隈川沿いに紅しだれ桜を植樹したりと、様々な取り組みが市民参加のもと行われ、着実に成果をあげています。

自然は、何もせずに守られるものではありません。「美しい自然は市民の財産」という意識と行動が、白河の美しい未来へとつながっていきます。

nature angle



不動清水のピッコイ

表郷地域の清水流中にのみ自生する水草。氷河期の名残をとどめる神秘的な植物で、このほかには世界でもスウェーデンでしか見られない大変貴重な多年草です。茎は細く、横に這うように枝を伸ばすピッコイは、水がきれいな湧水口の水温が一定のところしか自生できないといわれ、表郷地域の中でも金山・瀬戸原地内のみで生息しています。

文歴 化史

静かに、そこにある歓び

悠久の昔よりつづられてきた遙かな地への憧れ。
平安の歌人が歌枕として「白河の関」を詠み込み、
以来、幾多の風流人たちがこの地に憧れ、あるいはこの地を目指しました。
見果てぬ夢をみちのくに馳せ、残された数多くの歌。
遙かな思いをよそに、関跡はただ静かに佇んでいます。

史跡 白河関跡

【白河関跡】

人や物資の往来を監視するための関で、奈良・平安時代に機能していたと考えられています。廃関後は歌枕（和歌の名所）として都人の憧れの地となり、多くの歌人たちに詠まれました。



超
楽
時
響

時を超え人と人の心が
結び合う憧憬の地

白河の関——。陸奥を往来する人や物資を監視する関の関は、八世紀末の文献に初めてその名を現しますが、十世紀後半にもなると、その機能が次第に失われていきました。しかしやがて、幾多のいにしえの歌人たちが、この白河の関に思いを寄せ、歌枕として知られるようになり、ます。能因法師の歌「都をば霞とともに立ちしかど秋風ぞ吹く白河の関」が評判を呼ぶと、西

行、一遍上人、宗久、心敬、宗祇、そして松尾芭蕉と、そうそうたる風流人たちが関に憧れ、訪れようとしていました。

幽玄な杉木立の中に、ひっそりと関跡の碑が建っており、長い石段の丘頂に白河神社が鎮座しています。樹葉からもれる陽の光が苔むした石段の上に落ちる風景の中に、幾多の歌人たちが佇み、時を超えて歌心を呼び起こされたことでしょう。すべては静まり返っ

ています。

歌枕として現在までの長い間、詩歌の世界で生き続けた白河の関は、歌人たちにとってずっと夢や浪漫を与えてくれる憧憬の地でした。とりわけ、天下の名文『奥の細道』の旅で、春立てる霞の空



【芭蕉・曾良像】

かねてより思いを寄せていたみちのく路の関門「白河の関」跡に立ち、感慨にひたっているかのような芭蕉・曾良の像が、白河関の森公園に建っています。

に、白河の関越えんと、決意して旅立った松尾芭蕉にとって、白河の関はまず第一の勘所だったのではないでしょうか。関跡に隣接する白河関の森公園には芭蕉とその門人曾良の像が建ち、現代の風流人たちを静かに見つめています。



白河だるま市



小峰城（震災前）

白河提灯まつり

古魂
伝楽

伝統、その魂を受け継ぐことは
白河に生まれ育った白河人たるあかし

history
angle



白河だるま

松平定信が城下で旧暦の正月に行われたその年の初市「市神祭（花市）」に、縁起物のだるまを売り物として出すため、だるまの顔をお抱え絵師の谷文晁に描かせたと伝えられています。まゆは鶴、ひげは亀、びんは松と梅、あごひげに竹をあしらった福々しい「白河鶴亀松竹梅だるま」として名高い、縁起のよいだるまです。

小 峰城は十四世紀中頃、結城親朝によって築かれたと伝えられます。現在の小峰城は、江戸時代に初代白河藩主となった丹羽長重が改築した平山城で、奥州の押さえとして親藩・譜代の大名が居城しました。明治維新前の戊辰戦争で落城。城郭は戦火にあって焼失しましたが、平成三年に三重櫓を復元。これには、白河における戊辰戦争の激戦地・稲荷山の杉材を使用したため、床板や柱には当時の弾痕がそのまま残っています。平成六年には前御門も復元しました。東日本大震災により崩落した石垣は、現在修復中ですが、威風堂々たる小峰城は健在で、白河のシンボルとして広く市民に親しまれています。

史と伝統を誇る鹿嶋神社の例大祭です。昼は山車が練り出し、夜はご神体「鹿島さま」を乗せた神輿が数千の提灯を供にして、闇を鮮やかに彩ります。たいこ橋を渡るシーンや阿武隈川渡りのシーンは幻想的で、見る人すべてを感動へと誘います。白河魂の誇りがいにしえから現代へと受け継がれています。

白河だるま市は、松平定信が城下の繁栄を願って開いたのが始まりといわれています。白河地方に春を告げる風物詩です。市街の目抜き通りを中心に、縁起のよい白河だるまなどを売る露店が出店し、多くの人出で賑わいます。

様々な古い伝統を守り続け、現代へと受け継ぎ、紡がれてきた白河の歴史。そこには、ここで暮らす人々の誇りが息づいています。





第一楽章

食

美味
悦楽

豊かな風土と
歴史が育んだ味わい

極上の味は
白河の大地から
生まれる

多彩な風味が白河らしさ、
その魅力は私たちの宝物

透

き通る清涼な水や高原の空気に恵まれた白河市では、数多くの美味が育まれてきました。古くから知られるそばは、松平定信が、白河高原の風土に合った作物として、冷害に強いそばの栽培を奨励したことが背景にあります。冷涼な気候であり冷たい水がふんだんにある——おいしいそばを作る条件を備えた白河は、盛岡・信州・出雲とともに、日本四大そばどころの一つともいわれており、今も市内の多くのそば屋がその味わいを競っています。

麺のもう一つの名物、ラーメンは、大正時代に最初のラーメン店が現れました。このラーメン店の弟子たちが市内に店を構え、競うように技術の錬磨と伝承に努

めてきたことが、近年のラーメンブームともあいまって、今日では約百軒のラーメン店でおいしい白河ラーメンを提供しています。心地よい歯ごたえの手打ち縮れ麺と、コクがありながらサッパリとした味わいのしょうゆ味のスープに特徴があり、広く支持されています。

また、和菓子のお舗があるのは、城下町の特色の一つです。楽翁が好んだ茶道とともに、お菓子里も白河の粋が凝らされてきました。時代の茶人たちが優れた菓子職人を育ててきた歴史があり、風流な銘菓からは、白河の文化の香りを感じるができます。ほかにも、庶民の味ともいえる南湖だんごや煎餅など、多彩な菓子文化も魅力です。

白河の風土や気質によって育まれてきた様々な「食」は、白河らしさを伝えていく大切な宝物です。

food
angle



清酒

清涼な地下水と澄んだ空気のもと、地元でとれる極上米を原料に、香り高く芳醇な銘酒が造られます。天の恵みと造り手の思いがしっかりと醸し出された一品です。スーッと飲みやすく、それでいてグッとくる旨さがあります。近年では、表郷地域の「びゃっこの泉」、大信地域の「初舞台」など、地域で「うまい酒」を造る取り組みが行われています。



大好き白河



白河というと
やっぱり南湖かな。
美しい自然をこれからも
守りながら、新しい城下町
の歴史をみんなで
創っていきたく
いです。



高齢者や
障がいのある方など、
誰でも不自由なく
行くことができる
「バリアフリーのお店」が
もっとたくさんでき
るといいな。



清らかな水が
流れる白河は、おいしい
ものがいっぱいです。
将来は保育士になって
元気なまちづくりを
応援したいな!



困ったことが
あっても、地域の
みんなで助け合える
あたたかい絆がある。
それが白河の一番の
自慢です。



東北では珍しい
石垣をたくさん使った
小峰城、町ぐるみで賑わう
白河提灯まつりなど、歴史
と文化が息づく白河が
大好きです。



まちの人たちの
気持ちいいあいさつが
好きです。白河は大人と
子どもと一緒に楽しめる
イベントがたくさん
ありますよ。



白河に、みんなの「楽」を広げれば、
まちも人も元気になる。



子どもたちが 夢見る まちの 楽しい未来

自分たちが暮らすまちを、もっと素敵にしたい。
私たちのふるさと・白河が、これからも
みんなの笑顔が行き交うまちであるように…。
一人ひとりが楽しい夢を見ています。



白河考 楽



白河の未来は「楽」がいっぱい

いきいきと暮らす人の輪を広げれば、
きっと、もっと、まちが笑顔でいっぱいになる。

地域の伝統と絆を大人たちから学ぶ



祭り楽

ふるさとの祭りの賑わい。先人の想いは伝統にかわり、やがて子どもたちへと受け継がれます。それは白河人の心の拠りどころともいえるもの。いつの時代も変わらない絆と笑顔がここにきらめいています。

身近な史跡や文化財で白河の歴史を学ぶ



れき楽

白河市には小峰城をはじめ、身近に多くの史跡があります。市内小中学校では、これらとともに松平定信公の業績を調べる学習を行っており、子どもたちのふるさとへの誇りやふるさとを愛する心が育まれています。

友との切磋琢磨から向上心を学ぶ



友楽

ふるさとに暮らすみんなと同じ目標に向かって励みたい。白河市では、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ、公民館教室など様々な活動を支援。世代を超えた友の輪が広がっています。

首都圏とのアクセスが楽で便利

白河は高速交通体系に恵まれており、アクセスの良さは、ビジネス・レジャーに魅力的です。



東北新幹線・新白河駅
最速71分で東京へ

71分

新白河駅から東京駅まで最速で71分。たとえば、白河の工場から東京のオフィスまで約2時間で移動できるので、本社出張も余裕で日帰りができます。首都圏とのアクセスの良さが魅力です。



東北自動車道・白河中央スマートIC
高速アクセスで全国へ

104分

東北自動車道を利用すれば、白河中央スマートICから浦和ICまで1時間44分ほどで首都圏に直結。磐越自動車道と北陸自動車道を経由すると、関西圏にも迅速にアクセスすることが可能です。



福島空港
全国主要都市、そして海外へ

30分

白河市街地から福島空港までは車で30分ほど。国内線は札幌、大阪、海外はソウル(運休中)に定期路線が就航しています。就航先各空港から、国内線、国際線への乗り継ぎができ、全国そして海外への移動が可能です。

あたたかい絆が広がっています。

[白河市の姉妹都市・友好都市・災害時相互援助協定都市]

地域間交流が生み出す、あたたかい絆。そこには白河市の未来を拓く、たくさんの笑顔が広がっています。白河市では、姉妹都市として、コンビエニユ市(フランス)・アノーカ市(アメリカ)・友好都市として、桑名市(三重県)・行田市(埼玉県)・戸田市(埼玉県)、災害時相互援助協定都市として那須塩原市(栃木県)・深谷市(埼玉県)・板橋区(東京都)ほか12団体とそれぞれ協定を結び、現在も活発な交流が続いています。お互いの都市の魅力をより深く学ぶこと、それは私たちのふるさと白河の「楽」を世界に広める絶好の機会となっています。



白河市は、仙台と東京のほぼ中間に位置し、情報・電子分野などの製造業をはじめ、様々な企業活動が展開されています。アクセスが良好なため、首都圏に新幹線で通勤するビジネスマンもたくさんいます。

白河考

大人たちが
進める
白河の楽しい
魅力づくり

白河市は、歌枕と名高い「白河閑跡」をはじめ、白河藩主松平定信が庶民に開放した「開港公園」、国内唯一の水河期の現存植物ともいわれる「ヒッコイ」の自生地など、豊かな自然や歴史・文化遺産が数多く存在しています。これらの文化遺産に加えて、白河市はみちのくの玄関口として、東北自動車道、東北新幹線などの高速交通体系にも恵まれ、首都圏に隣接するという地理的優位性を有しています。暮らしやすく、働きやすい白河は、まさに「楽」のコンセプトをかなえる福島県南地方の中核都市といえます。

毎日の暮らしが楽しい

一人ひとりの毎日の暮らしを輝かせることが、まちを魅力ある楽しい場所に変えていく。



想楽
観光ガイド白河

ふるさとに息づく資源の紹介。その素晴らしさを伝えていきたい。



伝楽
Ust 白河

ふるさとに息づく資源の紹介。その素晴らしさを伝えていきたい。



共楽
NPO 法人カルチャーネットワーク

ふるさとに息づく資源の紹介。その素晴らしさを伝えていきたい。

小峰城 ※現在、石垣修復中

長谷川知寛さん
白河は、歴史や祭りのほか、地域で育まれた資源がたくさんあります。白河で頑張っている人や魅力ある地域資源にスポットをあてて全国・全世界に向けて発信することで、白河の活性化・まちづくりに寄与できればと考えています。

安田好伸さん
白河は、古いものを大切にしながらも、新しい風を積極的に取り入れる「楽」の文化があります。その根底に流れているのは、松平定信が唱えたお互いを助け合う優しい心。これからも、地域の皆さんを巻き込みながら「文化のまち・白河」を目指します。

暮らしやすく、働きやすい生活拠点

美しい自然を満喫しながら、家族みんながゆとりをもって暮らしやすく、働きやすい環境が整っています。

ふるさとの自然に抱かれた 快適な生活空間

白河市には、本当の意味で満たされる豊かな暮らしがあります。白鳥ニュータウン(表郷地域)、田園町ニュータウン(大信地域)は、おいしい水と生活に便利な施設がすぐそばにある快適な生活空間。ここでは、野菜づくり、ガーデニング、ゴルフ、スキー、温泉などを楽しみながら、快適な生活を存分に味わうことができます。



交通アクセスに優れた 企業経営の新たなステージ

古来より要衝の地として歴史の舞台上で登場する本市は、東京から200km圏内に位置し、東北自動車道や東北新幹線などの高速交通網が整備され、利便性に優れていることに加え、地盤が固く安全性の高い企業活動に適した地域です。生産拠点である「工業の森・新白河」や研究開発拠点「新白河ビジネスパーク」では多くの企業が進出し、快適な生活空間「新白河ライフパーク」では住宅の集積が進むなど、職・住・悠を備えた魅力ある場を提供しています。



安全・安心に暮らせる
人にやさしいまち

防災訓練

秋季火災想定防御訓練の様子。白河市では、定期的な防災訓練を行い、市民協働による消防力を強化



安全で安心なまちづくりは、暮らしやすい地域社会をつくるための基盤です。白河市では、東日本大震災の教訓を踏まえ、平時から災害への備えができていく防災力の高い地域を目指しており、町内会、消防団、市民等が参画する防災訓練をはじめ、防災マップ等の配布や出前講座などを通して防災・減災に関する理解を深めています。さらに、地域防災計画に基づき、計画的な防災・減災体制の整備を推進しています。併せて自主防災組織の育成・支援に努め、「地域の安全は自ら守る」という機運が高まっています。

また、防災対策・体制の強化に向けて、警察署など関係機関との連携を図る一方、各地域の防犯ボランティアの組織化、子ども見守り隊への支援などを行っています。さらに、福島第一原子力発電所の事故で飛散した放射性物質による影響を最小限に抑えるため、国、県及び関係機関と連携して計画的に除染を進め、放射線量の低減を図るとともに、大気などに含まれる放射性物質のモニタリングを継続的に行い、空間線量を市民に分かりやすく公表しています。

見守り隊

元気な笑顔が
飛び交うまちかど



「地域の子どもは地域で守る」をスローガンに、市内すべての小学校区単位に結成されている地域の防犯ボランティア。防犯広報、防犯パトロールをはじめ、児童・生徒の登下校を中心とした見守り活動を行っています。

地域コミュニティで築く、安全・安心の絆



一 安全・安心で
やすらぎのあるまち

子どもから大人まで、すべての市民の安全・安心が確保され、やすらぎのある暮らしを表現できるまちを目指します。

三 一人ひとりの絆とみんなの力で
輝く未来をつくるまち

地域に息づく人と人とのつながりや思いやりを将来にわたって守り育て、地域団体や企業などとの連携によって磨きをかけながら、誰もがいきいきとした輝きを放つまちを目指します。

第二楽章

まちづくりの理念

二 活気と魅力にあふれ、
愛着と誇りを持てるまち

自然・歴史・伝統・文化・産業などの恵まれた地域資源や地域特性を生かした白河ならではのまちづくりを進め、誰もが活気と魅力を実感でき、愛着と誇りを持てるまちを目指します。

「暮らし」と「楽」が共存するまち

白河市では、目指すべき将来像を「みんなの力で未来をひらく 歴史・文化のいきづま 白河」と定めています。

地域の魅力と活力にあふれ、そこに暮らす私たちが誇りと愛着をもてるまちを
一步一步つくり上げていきます。

地産地消・ブランド化の推進

消費者の農産物に対する安全・安心へのニーズに応え、高品質で付加価値の高い「白河ブランド」農産物を内外にPR



地域資源を生かし産業を育て、雇用を生むまち



いきいきと健やかで明るい笑顔があふれるまち

介護予防講座

高齢者の生きがいと健康づくり、認知症予防などを目的に定期的に実施し、予防重視型の施策を展開



健やかで誰もが元気で暮らせるまちづくりを目指して

少子・高齢化や核家族化など社会や生活環境の変化に伴う問題に対応できる地域社会を目指す、「自分の健康は自分で守る」という意識啓発を柱に、健康づくり施策の積極的な支援や、相談・教育事業、各種検診事業を展開しています。さらに、保健センターを健康づくりの拠点とし、関係機関の連携にも努めています。

また、乳幼児をもつ親が気軽に集うことのできる「つどいの広場」をはじめ、児童手当の支給や18歳までの医療費の助成、放課後児童クラブ・放課後子ども教室の開設など、子育てに関する総合的な

サポートを行っています。

高齢者福祉の推進については、生きがい活動やふれあいの場を提供するため、元気に暮らせる環境づくりとして「高齢者サロン事業」や「老人クラブ育成事業」などを実施し、地域に暮らす高齢者を地域全体で支え合っています。

障がい者福祉の推進については、自立・社会参加への支援を目指し「障がい者就業・生活支援センター」を通して、障がい者が住み慣れた地域で暮らしているよう、ハローワークなど関係機関との連携を図っています。

地域の資源を生かし、活力あるまちの構築を

産業の振興と雇用機会の創出に向けて、様々な事業を展開しています。その一として、農産物のブランド化推進事業では、農産物のブランド化を図り、販売促進に取り組んでいます。また、農業者やJA、商工団体などで構成する「未来につながる農業会議」において、農業の将来に向けた基本計画を定めた「白河市食と農の基本計画」を策定し、計画に基づき農業の振興を図っています。

さらには、首都圏からの良好なアークをを生かし、優良な企業の誘致に積極的に取り組んでいます。企業立地奨励金をはじめ、各種優遇制度が充実しており、輸送用機械、医療福祉機器、食品、再生可能エネ

ルギー等の関連産業の産業集積を目指し、企業の受け入れ態勢を強化しています。これらと呼応し、既存企業の振興を推進するため、「一般社団法人産業サポート白河」を活用し、人材育成・企業間の取引斡旋や雇用機会の創出・確保を図るとともに、災害に強く環境負荷の少ない再生可能エネルギーの導入、拡大や関連産業の育成に取り組む、地域経済の活性化を進めています。

このほか、「おもてなしの心」で来訪者を迎え入れる観光産業にも力を注ぎ、関連団体との連携強化、首都圏での観光物産PRなどの活動をを通して白河の魅力を発信しています。

子育て支援

にこにこ楽しく子育てをサポート



市内には、親子で集い、子育ての相談や情報交換等ができる場所があります。

おひさまひろば(NPO法人しらかわ市民活動支援会、3歳児まで対象)、あいに一広場(わかば保育園、未就学児対象)、たんぼぼサロン(NPO法人子育て環境を考える虹の会)、つどり・シルバーちゃん(公益社団法人白河・西郷広域シルバー人材センター、未就学児対象)など

しらかわ食と職の祭典

イベントを通してまちの魅力を再発見



中心市街地の賑わいを創出するために毎年秋に街なかで開催されるイベント。地場産品の紹介や職人の技の披露など、ふるさと自慢の「食文化」と「伝統職」の魅力を存分に味わうことができます。

地域の魅力と活力が実感できるまちづくりを、次々に

みんなが笑顔で暮らせるまちづくりが、花ひらく



白河中央スマートインターチェンジ
平成21年8月供用開始。高速道路本線から直接一般道路に接続される本線直結型で、上下線そろうのは全国で初めて。



快適でやすらぎのある
住みよいまち

心豊かに学び・ともに
ふれあい・生きる喜びを
実感できるまち

白河市立図書館
連携する市内4図書館の中核として、地域の開かれた知の拠点として、誰もが気軽に利用できるよう図書館サービスを実施



広がる学びの舞台 生涯にわたり輝き続けるために

白河市では、子どもから高齢者まで、誰もが学ぶことの楽しさを実感できるまちづくりを進めています。学校教育においては、白河の歴史や文化についての知識を深め、郷土に対する愛着や誇りを醸成し、生きる力と思いやりを育むことができる教育環境づくりに取り組んでいます。

また、白河の歴史や文化を次世代へ継承するため、城下町の歴史やゆかりのある人物、文化財を資料館などで紹介し、ふるさとの歴史・文化に慣れ親しむ機会を数多く設けています。さらに、豊かな情操の涵養を図り、芸術文化に対する理解と関心を深めるため、

「しらかわ音楽の祭典」や「美術展覧会」など発表と鑑賞の機会を提供するとともに、各文化団体の支援に努めています。生涯スポーツの振興については、総合型スポーツクラブの育成や定着を図るとともに、スポーツ大会や教室を開催し、生涯スポーツ社会の実現を目指しています。

併せて、地域の中で高度な技術や豊かな知識・経験を有する人材を発掘・確保していくため、福島大学白河サテライト教室、公民館教室、出前講座などを開催し、より高度な学習ニーズに対応できる環境を整備するなど、学びの舞台が広がっています。

白河市 市民文化会館

市民の「絆」が深まる芸術
文化拠点の実現に向けて



市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、誰もが気軽に集い中心市街地に日常的な賑わいを創出する新たな市民交流拠点施設として、白河市立図書館の隣接地に市民文化会館を整備しています。

地域の歴史と景観を守り、 暮らす人の笑顔がきらめくまちに

白河市は、近世初頭に白河藩の政治経済の中心地として城下町が整備され、今日まで発展してきました。国指定史跡小峰城跡周辺では、歴史的な街路や建造物を多くみることができ、往時の様子を伝えています。これら地域固有の歴史的・文化的資源については、歴史的風致維持向上計画に基づき、適切に保全・活用を図っています。併せて景観計画やガイドラインに基づき、景観形成に対する支援、市民が主体となる景観まちづくり協議会の設立や景観協定の締結を推進し、地域ぐるみで景観整備を図ることで、歴史と景観を生かした白河らしい街並みの

形成に取り組んでいます。さらに、市民の利便性の向上を図るため、道路網の整備、自然や街なかの景観等に配慮した秩序ある市街地の形成、衛生的で快適な暮らしを支える下水道の整備、路線バスや循環バスの運行による公共交通の充実など、様々な施策を展開しています。

また、老朽化した道路や橋梁の改修、水道施設の耐震化等による安定した水の供給体制の確保といった減災対策を計画的に推進することで、誰もがやすらぎを実感し快適に生活できる住環境づくりを推進しています。

谷津田川 せせらぎ通り

誰もがくつろげる
魅力の空間づくり



身近なまちづくり支援街路事業によって誕生したストリート。ほかにも「友月山プロムナード」「乙姫桜プロムナード」など、歴史のまち白河にふさわしい歩行空間がたくさん誕生しています。

歴史や文化が息づく住環境は、私たちの自慢です

学ぶことは一生の喜び。年を重ねても学び続けたい



景観まちづくり協議会

市民と行政が協働して、地域の景観づくりに取り組んでいます。



地域のふれあいと支え合い
で共に創るまち



関山を望む田園風景

郊外には、美しい田園風景が広がっています。関山には、年間を通して多くの登山客が頂上からの眺望や山野草を楽しむため訪れます。



自然と共生し、潤いのある
環境を未来につなぐまち

白河市では、行政施策の企画・立案の段階から市民の発想や想像力を幅広く取り入れるため、各種の審議会や検討会等に、町内会、事業者、NPOなど様々な分野から参加いただくとともに、パブリックコメントやアンケート調査をきめ細かく実施するなど、市政への市民参加を推進しています。併せて官民一体となった協働の仕組みづくりや、地域の活力向上に自発的に取り組むコミュニティ活動を支援することで、市民と行政の協働による地域に根ざした魅力あるまちづくりを推進しています。また、国際交流・都市間交流

一人ひとりが考え、創り出す
新しい白河の魅力

を通して、地域や国を越えて、多様な価値観をお互いに認め合うことの大切さを学ぶとともに、私たちが住む地域の良さを再認識し、文化の薫り高い魅力あるまちづくりに励んでいます。さらに、白河にゆかりのある方を「しらかわ大使」として委嘱し、白河の魅力を全国に発信していただくとともに、大使からの助言を市政に反映させています。これらの根底にあるのは郷土愛。市民一人ひとりが考え、自ら行動を起こすことで、私たちのまちは新しい輝きを放つことができます。

えきかふえ
SHIRAKAWA

街なかの交流拠点から
白河の魅力を発信



平成21年9月、JR白河駅舎内にオープン。県内初となる国の認定を受けた「中心市街地活性化基本計画」に基づき完成。カフェコーナー、地場製品の販売などがあり、地域の交流拠点として賑わっています。

美しい水と緑は、
私たちみんなの誇り

市街地の周辺には阿武隈川、川及び隈戸川等が清らかに流れ、その流域には豊かな田園地帯が形成されるなど、本市には、水と緑にあふれた自然環境が広がっています。これを守り次の世代に継承していくことは、ふるさとに暮らす私たちの使命です。このため、関係団体等と連携を強化し、市内一斉清掃や河川美化活動など自主的な環境美化活動を推進するとともに、ふるさとのシンボルである南湖やまちなかを流れる谷津田川の水質向上、ビャッコイ等希少野生動物植物の生息・生育環境の保護などに努めています。

さらに、環境美化の推進に向けて、資源ゴミ分別袋の活用など、効果的なごみの減量や資源化、市民の意識高揚に努め、資源循環型社会の形成を目指しています。学校では、こどもエコクラブ等の課外授業を実施し、環境学習機会の拡充に努めるなど、学びながらふるさとの自然を愛する心を育てています。また、本市には、南湖、小峰城跡、白河関跡などの史跡や、豊かな自然を生かした公園が多くあり、市民の憩いの場となっていることから、公園の維持管理にも力を入れています。

町内一斉清掃
・河川愛護

きれいなまちを
いっしょに守る



自然豊かで美しく快適な生活環境をつくるため、毎年7月(第1日曜日)に地域町内会が主体となり市民総ぐるみ市内一斉清掃及び河川愛護を実施しています。初夏に繁茂した草木等の刈払いやごみ拾い、側溝土砂の搬出を行い市内の美化に努めています。

手をつなぎ一緒に創り出す、地域の魅力

地域の自然を、ともに守っていこう





聖ヶ岩

白河市の最高峰・権太倉山(976m)の麓にある巨石で、源義経の愛馬にまつわる伝説があります。



聖ヶ岩ふるさとの森

白河市大信にあるキャンプ場。バンガローや遊歩道も整備されており、隈戸川の源流の美しさも魅力です。



中山義秀記念文学館

大信村(現・白河市)出身の芥川賞作家・中山義秀の業績を伝える文学館。図書館も併設されています。



感忠銘碑

南朝の忠臣、結城宗広・親光父子の忠烈を讃えた大磨崖碑。「感忠銘」の三文字は白河城主松平定信の筆です。



白川城跡

白河市街の東方の丘陵にある城跡。鎌倉から室町時代に白河周辺を領した白河結城氏がこの地を本拠地に活躍しました。



白河ハリストス正教会

1915年に建立された全国でも稀少なビザンチン様式によるギリシャ正教会系の教会。県重要文化財に指定されています。



南湖神社

松平定信を祭神とした神社。参拝者が絶えることがなく、春には紫菀桜が見事に咲き誇ります。



翠楽苑

南湖公園の一角にある日本庭園。松平定信の庭園思想を体現した苑内には呈茶が楽しめる松楽亭等、茶室もあります。



福島県文化センター白河館・まほろん

福島県内で発掘調査された土器や石器などの遺物を多数収蔵。歴史の体験教室なども開催しています。



境の明神

栃木県那須町と福島県白河市の境界にある神社で、松尾芭蕉が「奥の細道」でみちのくの第一歩を記した地です。



白河関の森公園

白河関跡に隣接し、園内には茅葺き民家を移築した「ふるさとの家」や大型遊具などがあります。



彩白景河

四季折々の美しい風景の中に、歴史と文化の薫る街道のそばに、白河に暮らす私たちの心にきらめく、たくさんの「楽」。それはこれからも守っていききたい、白河の大切な宝物です。



妙閑寺の乙姫桜

伊達政宗が桜の苗木を将軍家に献上する途中、その内の1本を住職が所望し、植えられたものと伝えられています。



石原のしだれ桜

数多くの老桜がある東地域の中でもひととき見事なしだれ桜で、樹齢約300年以上と推定されています。



庄司戻しの桜

源義経の忠臣、佐藤継信・忠信兄弟の父、信夫庄司・佐藤基治ゆかりの桜で、芭蕉一行もこの地を訪れたとされています。



硯石磨崖三十三観音

自然石の岩肌に刻まれた美しい観音像です。ほぼ中央部に阿彌陀三尊の来迎像もあり、どちらも江戸時代中期のものとして推定されています。



小滝の清水

平安時代末期、前九年の役の際、源義家が安部貞任討伐のため、深井田地区に陣を張り、この清水を愛飲したといわれています。



鶴子山公園

約4,000㎡の芝生広場には、鶴をイメージした大型コンビネーション遊具があり、30mのローラーすべり台やブランコなど、様々な遊びが楽しめます。



東風の台運動公園

グラウンドやテニスコートなどのスポーツ施設、キャンプ場やバーベキューハウスなどのレクリエーション施設を備えたレジャースポットです。



きつねうち温泉

東風の台運動公園の一角にあるアルカリ性単純泉の天然温泉。檜や大理石の大浴場、サウナ、大広間などを完備。日帰り入浴のほか宿泊も可能です。



釜子納涼盆踊り(8月14日、16日)はねっこ踊りや仮装大会などで盛り上げられます。



白河関周辺が踊り流しなどで大いに盛り上げられます。夜には小峰城からの数千発の花火が夏の夜を焦がします。



十日市の提灯祭り(7月下旬)は白河市大信十日市地区で開催。愛宕神社の祭りとして三百年の伝統を誇ります。



関田地区の八幡神社境内で五穀豊稔を祈って踊られます。さんじもさは「山神さま」が訛ったものといわれています。



小峰城、南湖公園、妙閑寺の三か所で同時開催される毎年恒例の桜まつりです。



白河桜まつり(4月中旬)

能の演目「道成寺」で著名な山伏安珍(根田地区生まれと伝わる)の命日直前の日曜日に安珍堂で踊られます。



白河の祭り

安珍歌念仏踊り(3月7日直前の日曜日)

🌸 発刊にあたって 🌸



白河市長 鈴木 和夫

平成17年11月7日、白河市・表郷村・大信村・東村が合併し、新生「白河市」が誕生しました。

本市は、福島県の南部中央に位置し、歌枕として名高い「白河関跡」や、「士民共楽」の地として造られた「南湖公園」などに代表される歴史や文化、那須連峰を望み、阿武隈川の源を発する豊かな自然など、魅力ある地域資源に恵まれたまちです。また、東北自動車道や東北新幹線などの高速交通体系に加え、首都圏に隣接するという地理的優位性を有しています。

本市では、これらの資源を最大限に活用しながら、将来都市像である『みんなの力で未来をひらく 歴史・文化のいきづくまち 白河』の実現に向け各種事業を展開し、市民と行政との協働による市政の発展に努めています。

この要覧をご覧いただき、“白河市の現在と未来像”をご理解いただくための一助としていただければ幸いに存じます。

白河市の概要

S H I R A K A W A

福島県の南部中央に位置し、阿武隈川に沿って東西に市街地が広がっています。高燥・冷涼・清涼な高原性の気候で、四季を通して暮らしやすい風土を有しています。

豊かな自然環境のほか、白河関跡や南湖公園、小峰城に代表される歴史や文化、白河提灯まつりや白河だるま市などの伝統行事、白河そばや白河ラーメンなどの食文化を有しており、多様な地域資源にも恵まれています。

近年、東北自動車道、東北新幹線などの高速交通体系の整備、さらには、アクセス道路の改良等に伴い、首都圏との近接性が増し、企業の立地、大規模住宅団地の造成、郊外型の大規模ショッピングセンターが建設されるなど、福島県南地方の中核都市として発展を続けています。



【市章】

白河市の「白」の字を図案化し、中心の楕円は輝き集う市民の活力を、外側の楕円の濃い青は豊かな大地と清らかな水を、淡い青はさわやかな青い空を、上部はこれまで育まれてきた歴史と文化を表し、全体の右上がりのデザインは、これらが調和し、「白河市」が未来へ向け限りなく躍進していくことを表しています。

(平成17年11月7日制定)



【市の花・ウメ】

白河城主であった松平定信の梅鉢の家紋にちなむとともに、花は早春葉にさきだつて開き実を結びます。

(平成18年4月22日制定)



【市の木・アカマツ】

白河の象徴ともなっている南湖公園周辺に植生しているほか、市内全域に見られます。

(平成18年4月22日制定)



【市の鳥・ウグイス】

白河地方に比較的多く棲息し、春には美声で鳴き優雅です。

(平成18年4月22日制定)



約177,000m²

南湖の湖面面積です。東京ドーム約4個分ほどの大きさの湖の周囲には、松平定信が設けた17か所の景勝地があり、四季折々に美しい風景を見せてくれます。翠楽苑でのお茶会、南湖湖畔でいただく南湖だんごなど、日本情緒あふれる公園です。

約14m

小峰城(三重櫓)の高さです。小峰城跡の三重櫓は、今に伝わる「白河城御櫓絵図」を基に復元されています。絵図には、櫓の平面や立面の様子が描かれ、その寸法についても詳細に記されています。復元した建物の規模は、あくまでも史実に忠実な数値といえます。



3体

市公認キャラクターの数です。本市の魅力を市内外に発信し、知名度の向上と地域活性化を図るキャラクターとして「ダルライザー」「小峰シロ」「しらかわん」を認定しています。ヒーロー、萌えキャラ、ご当地キャラの3体がそろって公認されるのは、全国で初めてです。



約15万人

毎年2月11日に開催される白河地方の伝統行事「白河だるま市」に訪れる人の数です。だるまの大きさは全部で18種類あり、毎年大きいだるまに買い換えていくと、末広がりの幸福が得られるといわれています。

約100店舗

白河市内にあるラーメン店の数です。コクのある醤油味のスープに、歯ごたえのある手打ち麺が主流で、シンプルかつ深い味わいはラーメンの王道ともいえるもの。お気に入りの一軒がきっと見つかります。

約8,000個

白河提灯まつりの提灯の数です。23町内の神輿が鹿嶋神社に集まり、神様が神輿に宿す「遷座祭」を行った後、約8,000個の提灯を供に出発します。白河人の心の拠りどころといえる祭りです。

自然、歴史、文化の中にひっそりと隠れている白河の魅力を数字でご紹介します。

数字で見る白河

🌸 白河市へのアクセス 🌸

【東北新幹線】

東京 ↔ 新白河 (1時間15分)
仙台 ↔ 新白河 (1時間)

【東北自動車道】

浦和IC ↔ 白河中央スマートIC (1時間44分)
仙台南IC ↔ 白河中央スマートIC (1時間36分)

【飛行機】

福島空港 ↔ 白河市街 (車で30分)

白 河

S H I R A K A W A



白河市勢要覧

福島県白河市

〒961-8602 福島県白河市八幡小路7-1

TEL 0248-22-1111(代)

FAX 0248-27-2577

企画・編集／白河市長公室秘書広報課

発行／平成25年12月 改訂

印刷／(株)日進堂印刷所

